

仮設住宅関連について

今回の地震で住居に大きな被害を受け、自宅での居住継続が不可能となり避難生活を余儀なくされている住民が数多くいる。今後このような住民の大部分が、恒久住宅の再建までの応急住宅として仮設住宅へ入居することとなる。阪神・淡路大震災時には、仮設住宅に関して、プライバシー、老人の孤独死、コミュニティの分裂等の問題が起きた。

今回の調査においては、地震後1ヶ月過ぎた段階での仮設住宅の建設状況・建設地等を把握することにより、阪神・淡路大震災時に見られた問題にどのように対応しているかを明らかにする。

(仮設住宅建設地)

合計で13市町村、63ヶ所、3460戸が建設される。

今回の調査では、長岡市、小千谷市、川口町の仮設住宅の一部(場所と建設戸数を以下に示す)を視察した。

市町村名	建設場所	建設戸数
長岡市	操車場跡地：B,C地区	459戸
	旭岡中学校グラウンド	20戸
山古志村	長岡市青葉台2丁目	127戸
小千谷市	千谷運動公園(野球場)	178戸
	千谷運動公園(多目的グラウンド)	135戸
	小千谷小学校グラウンド	38戸
	諏訪公園	33戸
	古谷トレーニングセンター	47戸
川口町	川口小学校	19戸
	川口中学校	138戸
	泉水小学校グラウンド	67戸
	田麦山小学校グラウンド	47戸
	田麦山保育園	14戸
	岡平	78戸
	木沢円柳寺	2戸

(特徴)

■ 小中学校のグラウンドへの仮設住宅の建設

被災地に適地が無いために、小中学校のグラウンドに仮設住宅の建設が行われている。その数は川口町4校(271戸)、小千谷市3校(75戸)、長岡市2校(50戸)、十日町市1校(30戸)、刈羽村1校(39戸)の11校計465戸に上り、全建築戸数の1割を越している。授業や部活動等への影響が懸念されるが、一方でお互いにコミュニケーションを取って協力する事により、学校が入居者をサポートするような状態も期待できる。視察時には仮設住宅への入居が始まっていなかったためその様子を知ることはできなかったが、今後調査していく必要がある。



(小千谷小学校)



(田麦山小学校)



(田麦山小学校)

■ 冬期間の対策

被災地域が豪雪地帯であることから、仮設住宅の建設に際して様々な対策がとられている。

積雪対策として、玄関が地面より 50cm ほどの高さとなるように基礎杭が打たれている。視察した仮設住宅のうち、小千谷市千谷運動公園以外は木で基礎ができていた。



(諏訪公園)



(木の基礎)



(千谷運動公園)

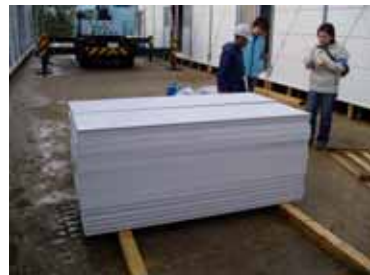
仕様としては、積雪加重 2.0m の耐雪設計となっている。また外壁には断熱材（グラスウール 100mm）が用いられている。



(内部・川口小学校)



(天井・川口小学校)



(断熱材・川口小学校)

長岡市の操車場跡地では、除雪車の使用に対応できるように地面がアスファルトで舗装されていた。

■ コミュニティ単位での仮設住宅への入居

阪神・淡路大震災の教訓から、コミュニティ単位での仮設住宅への入居が行われている。長岡市では市域を中央地区、東部地区、南部地区、北部地区に分類し、それぞれの地区内に仮設住宅を供給している。川口町では、小学校の学区単位を基本としている。しかし被害状況や収容可能人数等の状況により、仮設住宅の建設可能な公的な敷地を地区内に

確保できないケースも見られる。川口町の木沢地区では、当初旧木沢小学校のグラウンドに仮設住宅を建設する予定であったが、裏山に亀裂が見つかったため建設が困難になった。そこで、住民の土地使用の申し出により地区内の円柳寺や畑といった民有地に計6戸の仮設住宅を建設している。川口町田麦山地区では、地区内の田麦山小学校、田麦山保育園に建設される仮設住宅だけでは、地区内の仮設住宅入居希望者の約半数しか収容できないことから、住民が自ら民有地の所有者と協議を行い、土地を借上げるといって形で仮設住宅の建設地を確保している。上記の2地区は川口町の中でも山間に位置し、地縁的なコミュニティの形成が図られてきた地区であるので、このような試みは特に重要であると考えられる。



(木沢円柳寺)



(田麦山岡平)



(田麦山岡平)

また、甚大な被害を受け、現在も避難勧告が出されている山古志村の住民に対する仮設住宅は長岡市のニュータウン内に3ヶ所632戸が建設される。仮設住宅に入居する山古志村の住民とニュータウンの住民が、今後どのようにして交流を図り、サポートしていくことができるか注目していきたい。



(青葉台地区)



(青葉台地区)



(青葉台地区)